

# 北海道浮魚ニュース

平成 28 (2016) 年度 8 号

2016 年 7 月 4 日

道総研水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ : <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

## ◎日本海スルメイカ漁場一斉調査結果

6 月 22 日～ 30 日の期間、北海道渡島大島周辺から瀬棚沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸 (151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備) により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・調査を行った 6 点のスルメイカ平均分布密度は過去 5 年平均を下回った。
- ・魚体サイズは過去 5 年平均より大きい。

### 1. 水温分布 (図 1)

漁獲調査点 7 点の表面水温は 14.1～19.7℃ (昨年は 3 調査点で 16.8～19.1℃)、水深 50 m の水温は 4.1～12.8℃ (昨年は 3 地点で調査点 6.3～11.7℃) でした。

スルメイカの分布の目安となる水深 50m 層の水温は、檜山南部及び後志の沿岸には 12℃を超える比較的水温の高い海域がみられた一方、北緯 42 度以北、東経 139 度以西の海域では大部分が 5℃を下回る低い水温で、岸近くと沖合との温度差が大きくなっていました。

### 2. 分布密度 (図 1、表 1)

漁獲調査点 7 点のうち調査を実施した 6 点の CPUE (2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数) の平均は 17.8 で、昨年の 3 調査点での平均 (14.1) を上回りましたが、過去

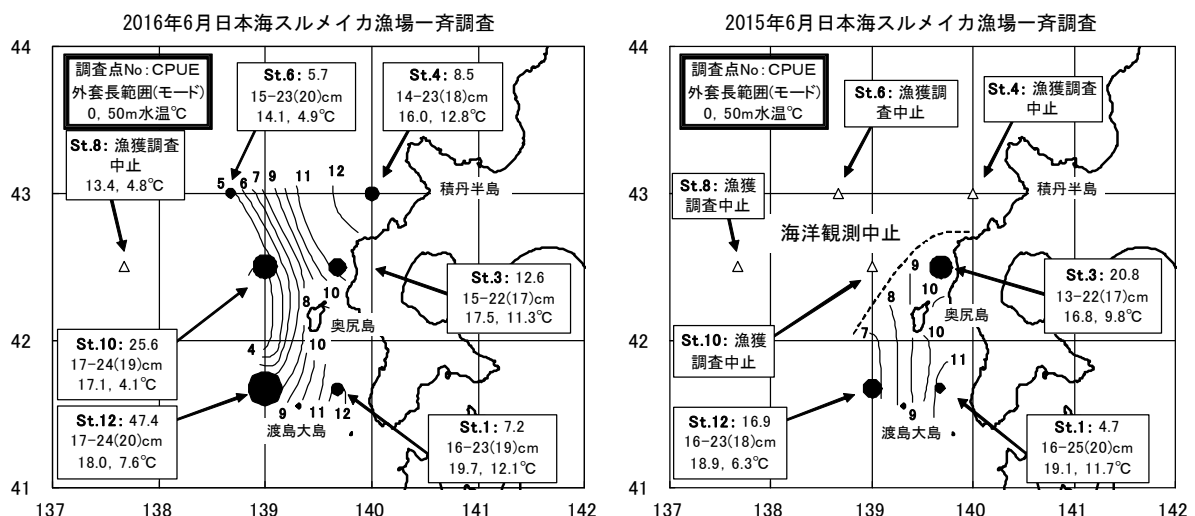


図 1 スルメイカ漁獲調査結果 (2015 年との比較)。●は漁獲調査点で大きさは CPUE を示す。△は漁獲調査中止。等温線は水深 50m の水温 (℃)

表 1 2011年～2016年6月漁場一斉調査の地点別 CPUE 及び過去5年平均

調査点	北緯	東経	概要	2011	2012	2013	2014	2015	2016	過去5年
St. 1	41-40	139-40	上ノ国沖	46.5	3.4	30.2	27.0	4.7	7.2	22.3
St. 3	42-30	139-40	瀬棚沿岸	23.1	196.7	44.4	84.8	20.8	12.6	74.0
St. 4	43-00	140-00	島牧北方	23.7	54.1	4.3	45.1	--	8.5	31.8
St. 6	43-00	138-40	積丹半島西方沖	7.1	5.6	4.2	70.1	--	5.7	21.8
St. 8	42-30	137-40	檜山西方沖	--	--	5.0	18.1	--	--	11.6
St. 10	42-30	139-00	奥尻島北西沖	9.6	23.2	4.4	84.9	--	25.6	30.5
St. 12	41-40	139-00	渡島大島西方	14.3	12.2	6.6	15.1	16.9	47.4	13.0
平均CPUE				20.7	49.2	14.2	49.3	14.1	17.8	29.3

5年の平均(全調査点 29.3、同じ6点 32.2)は下回りました。各調査点の CPUE は 5.7～47.4 (昨年 4.7～20.8)の範囲にあり、檜山海域では沿岸より沖合の調査点で分布密度が高い傾向がみられました。

### 3. スルメイカの大きさ (図1、図2)

調査を実施した6点のスルメイカ外套長(胴長)の範囲は14～23cm(昨年13～25cm)でした。最も多く出現したイカの大きさ(モード)は19cm(昨年19cm)で、海域全体の魚体の大きさは昨年及び過去5年平均より20～22cmの大型の個体が多くなっていました。各調査点のモードの範囲は17～20cm(昨年17～20cm)にありました。

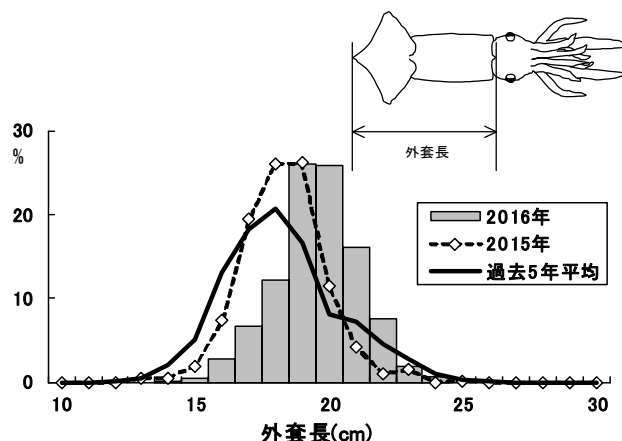


図2 調査海域全体の外套長組成

### 4. 標識放流 (図3)

調査期間中、6調査点で合計3,401尾の標識放流を行いました。放流したイカはヒレの付け根部分に、表面にアルファベットと2桁の番号、裏面に「JPN」の文字が記された黄色のタグが打たれています。現在、同じ標識を用いた放流が函館水試のほか国及び他府県の機関でも実施されています。標識のついたスルメイカを発見された方は最寄りの水産試験場まで連絡下さい。

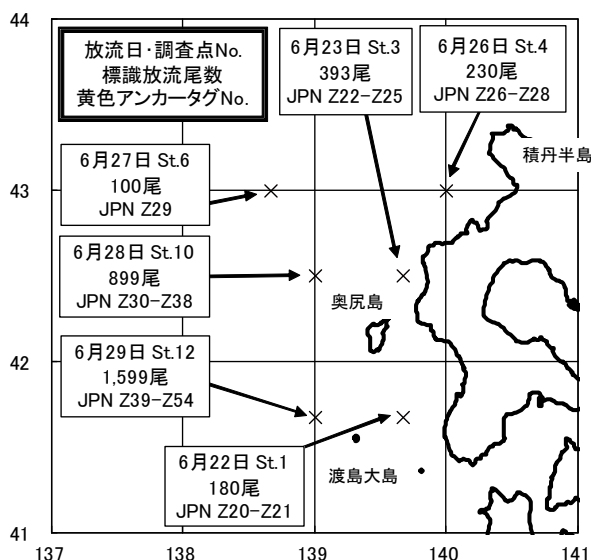


図3 標識放流の位置・放流日・尾数及び標識番号

(函館水産試験場調査研究部 TEL: 0138-83-2893、FAX: 0138-83-2849)